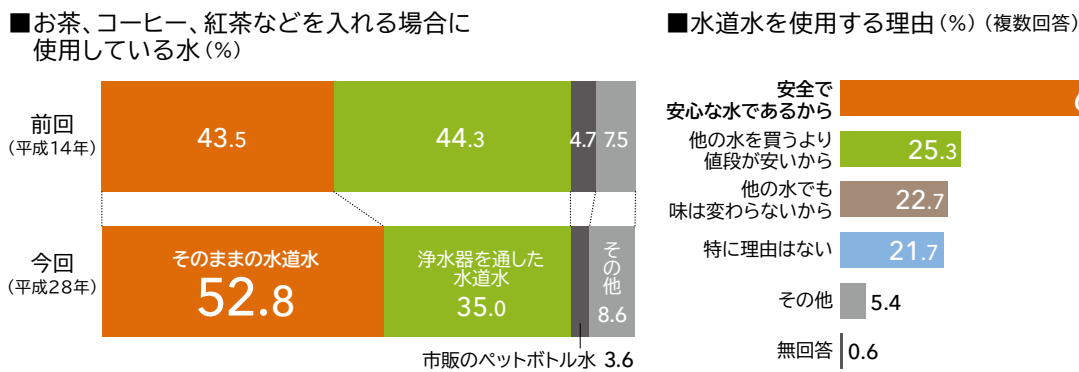


お客さま意識調査・事業所調査の結果について

県営水道では、今後の事業運営の基礎資料として活用するために、平成28年11月に個人と事業所のお客さまを対象に標記の調査を実施しましたところ、2,975人のお客さまと640の事業所からご回答を頂きました。ご協力いただきありがとうございました。調査結果の概要をご紹介します。詳しくは、ホームページの報告書をご覧ください。 **神奈川県 水道 意識調査** **検索** 問合せ先 県企業庁経営課経営企画グループ TEL:045-210-7219

■主な調査結果

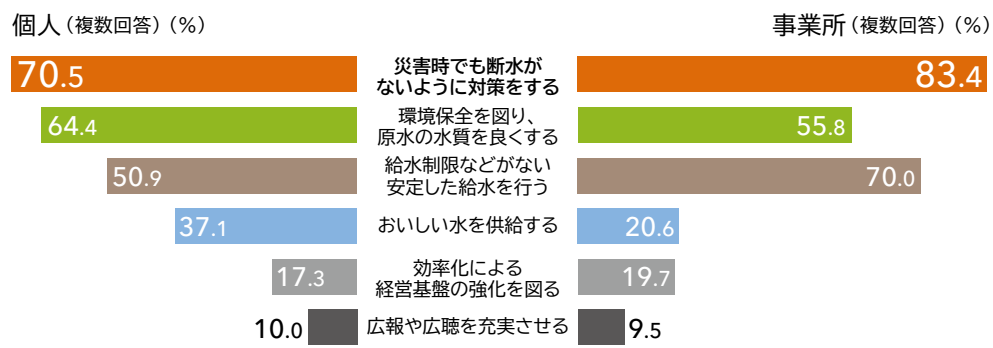
1 水道水の使用状況（※個人のみ設問）
自宅で「そのままの水道水」を使用している人が増加しました。
最も多かった理由は「安全で安心な水であるから」でした。



2 水道管の老朽化による更新の必要性の認知度
老朽化した水道管を更新する必要性の認知度は8割を超え、今後も9割程度の方に更新を進めていくことが希望されています。



3 県営水道が今後力を入れるべき事業
地震などの災害時でも断水が起きないように取組や、濁水等にも影響されない安定給水が望まれています。

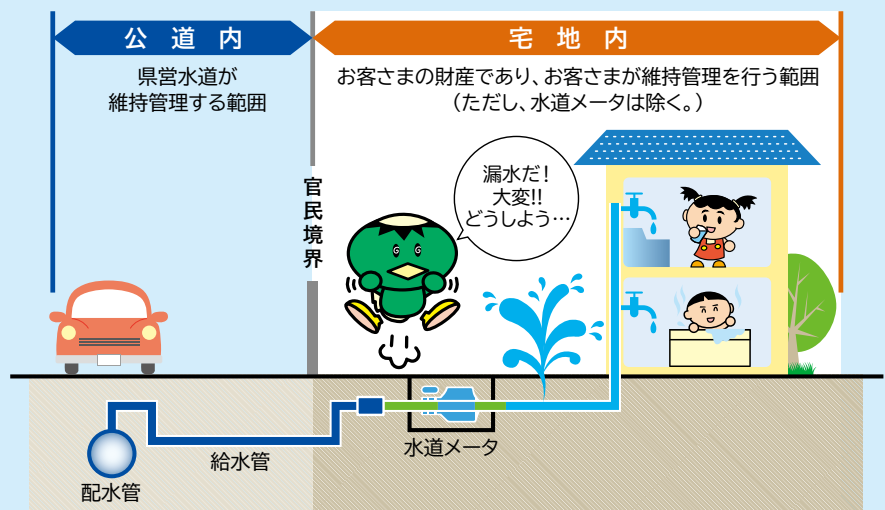


宅地内老朽給水管の取替えのすすめ

古くなった給水管は漏水が起きやすく、その中でも特に昭和50年代まで多く施工されていた鉛製給水管やポリエチレン製給水管の漏水が多く発生しています。

公道内の給水管は、県営水道が維持管理し、配水管の取替工事等にあわせて取替を行っています。宅地内の給水管は、お客様の財産であるため維持管理はお客様の負担で行っていただくことになっています。

家の建替え等に伴って宅地内の水道工事を行う際には、古くなった給水管の取替えをお考えくださるようお願いいたします。



具体的補強方法としては、コンクリートや鉄筋で壁や床を厚くしたり、柱を太くする工法や、引っ張り強い炭素繊維を壁などに貼り付ける工法などがあります。これらの工法を組み合わせて、それぞれの配水池に最も適した補強方法を選択しています。



配水池内の柱を鉄筋で補強した様子（この後、コンクリートを打設して補強工事の完成）

今回も、前回に引き続き配水池の耐震化工事についてご紹介します。

配水池の耐震化工事では、耐震診断の結果を踏まえて補強方法を決定していますが、平成27年（2015）5月に県の「想定地震動」が見直され、給水区域内で想定される最大地震動が変更となった地域があり、耐震診断結果の再評価を行いました。これにより、より大きな揺れに対しても耐えられるよう補強方法を見直しました。

具体的な補強方法としては、コンクリートや鉄筋で壁や床を厚くしたり、柱を太くする工法や、引っ張り強い炭素繊維を壁などに貼り付ける工法などがあります。これらの工法を組み合わせて、それぞれの配水池に最も適した補強方法を選択しています。

お客さまの毎日の生活に欠かせない水を大規模地震などの災害時にも安定供給できるように、飲料水を確保する役割を持つ配水池の耐震化について、平成39年度（2027）までに完了させることを目標に、工事を着実に進めていきます。

水道施設の耐震化④ 配水池の耐震化工事

22世紀につながるインフラをめざして

水道 100歳 時代

▲写真：水道管を運ぶ様子（昭和初期、湘南地方）